

## 年間第5主日

第一朗読 イザヤ 6・1-2a、3-8  
第二朗読 一コリント 15・1-11  
福音朗読 ルカ 5・1-11

2025.2.9 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父  
森翔真(長崎教区、神学科一年)

日曜日に司牧実習でご奉仕してくれている神学生、今日はお二人いらっしゃいます。向かって左側、イエズス会のアン神学生は間もなく、2月24日に助祭に叙階されます。2月24日の午後2時からイグナチオ教会のマリア聖堂で助祭叙階式があります。誰でも参加していいとのことなので、もし都合のつく方は是非ご参加になってお祈りくださればと思います。そして、アン神学生は助祭叙階後も隔週で高円寺教会で奉仕していただきますので、そのときに助祭としての仕事であるお説教もして下さるとなっています。

向かって右側の長崎教区の森神学生は、一応今年の学年は今日で終わり、教区に帰られます。来年度来るかもしれないし来ないかもしれないんですので——今日は今年度の最後ですので——、今日は森神学生にお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

---

皆さん、おはようございます。

今日は、この説教のタイミングで、説教と同じような内容で教話をさせていただきます。よろしくお願いします。

○召命について。よびかけとこたえ

今日の福音では、ペトロの召命が語られていて、イエスのよびかけとペトロの応答とが描かれています。「人間をとる漁師になる」(ルカ 5・10) というみ言葉は、他の福音書での平行箇所もあって耳にした方もいらっしゃるのではないで

しょうか。マタイによる福音書やマルコによる福音書では、「わたしについてきなさい。人間をとる漁師にしよう」（マタイ 3・19、マルコ 1・17）と記されています。そして、今日のルカによる福音書では、キリストに従うまでの道のりも示されています。

大漁の奇跡はまず、イエスが二そうの舟とその舟から上がって網を洗っている漁師たちに目を留めてくださったことから始まっています。イエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗って、「岸から少し漕ぎ出すように」シモンに頼みました。このときシモンは舟からイエスの話が終わるまでずっと聞いていましたが、神のことばを聞くために押し寄せて来た人たちの側にはいませんでした。その時、思いもよらなかった、イエスを通して語られる神の言葉を聞きます。「沖にこぎ出して網をおろし、漁をなさい」（ルカ 5・4）。ペトロは漁師だったので、漁をすとなれば、夜に明かりを灯しながら、水面に集まってきた魚をとるはずです。ペトロ自身、夜通し苦勞したのに何もとれなかったから、次の漁のために網の手入れをして準備しているのにと落胆したり、また、自分の方が経験からよく知っているんだという思いがあったかもしれません。

しかしその時ペトロは答えます。「しかし、お言葉ですから」（ルカ 5・5）。ここに信仰の芽生えがあります。

「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」。

その時、神の言葉を受け、聞き従ったからこそ、二そうの舟が沈みそうになるほどの魚でいっぱいになります。そのしるしを見て、シモン・ペトロはイエスを「先生」ではなく「主よ」と呼びかけ、さらにまた「わたしから離れください。わたしは罪深い者なのです」（ルカ 5・8）と回心します。主の言葉は、つねによびかけられていて、わたしたちをつくりかえてくださいます。

第二朗読でパウロは告白します。キリストの死と復活の神秘を通して、「わたしは、使徒たちの中で、一番小さい者」、このようなわたしでも「神の恵みによって、今日のわたしがあるのです」（一コリント 15・9-10）。

ペトロも神のみ言葉によって、神の豊かな恵みに与ることによって、「イエスは主である」という信仰告白をしました。それは、「このようなわたし」であっても、神がわたしたちを赦してくださり、「恐れることはない」（ルカ 5・10）と、神から離れるのではなく神と共に生きる者としてくださったからです。だから、

「人間をとる漁師」は神の恵みの力で、「生きたまま」の姿で、神のみもとに引き寄せます。

実際に、漁師の信徒が海を渡って、信仰を伝え、保っていった歴史がある教会もありますが、また、地を踏みしめ、迫害の最中<sup>さなか</sup>でキリストに向かって、一步一步血のにじむ歩みで殉教者たちがキリストを証しました。今や「殉教者の血は、イエス・キリストがすべての人に、わたしたち皆に与えたいと望む、新しい命の種」<sup>注)</sup>となって、信仰が受け継がれています。そこにはキリストのために命をさげている生き方があります。

わたしたちも一人ひとり召命があります。毎日の生活の中で、疲れたり希望を失っているときでも、「岸から少し漕ぎ出すように」、「沖に漕ぎ出して」いけるようにわたしたちを生かす聖霊のはたらきかけがあります。だから、わたしたちも同じ様に、キリストが目を注がれたもう一そうの舟を呼び寄せて、与えられた恵みをほかの人にも分かち合っていきましょう。

最後になりましたが、わたしは今日が今年度最後の実習となりました。皆さん、ありがとうございました。

注) <https://www.cbcj.catholic.jp/2019/11/24/19820/>  
教皇フランシスコの日本司牧訪問 教皇のスピーチ 殉教者への表敬  
長崎・西坂公園、2019年11月24日

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>